



### 13周年 これまで、そしてこれから

11月3日は、日本国憲法が公布されてから75年です。

全国九条の会は2004年に9人の知識人が「日本と世界の平和のために日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ「改憲の企てを阻むため、一人ひとりができるあらゆる努力で今すぐ始めることを訴える」というアピールを出したことに始まります。

代田・九条の会は、このアピールを受けて代田地区20人の呼びかけの下、2008年11月3日に発足。今年で13周年を迎えました。コロナ禍でこの1年半は、毎月の会報発行に留まっていますが、これまで毎年5月の憲法記念日と11月創立記念日に講演や文化的企画を、東京都民教会・ナザレン教会・代田教会を会場に行ってきました。その他、機会ある毎に戦争体験を語る会や戦跡巡り・映画会などを実施し、この地域に住み暮らし、働いている人たちとの交流をはかってきました。

安倍内閣は、2014年7月歴代内閣が違憲としてきた憲法解釈を改変し、集団的自衛権の行使を認める閣議決定を行い、2015年安保法制（戦争法）を強行成立させました。国会を包囲した市民の運動が統一され、「総がかり行動実行委員会」を結成。「安保法制」に反対する方向で、「立憲デモクラシーの会」「安全保障関連法に反対する学者の会」「安保関連法に反対するママの会」「若者の会」などが結成され、これらの諸団体が2016年に「市民連合」を結成。「安倍9条改憲NO!」の3つの署名の取り組みは、改憲反対の世論を広げ野党共闘を強くさせるおおきな役割を果たしました。代田・九条の会もこの運動に呼応して下北沢オオゼキ前・梅ヶ丘駅で街頭署名宣伝行動を行ってきました。

今回の総選挙の結果、自民、公明、日本維新の会の「改憲勢力」が衆院の3分の2を上回り、安倍・菅政権を引き継いだ岸田首相は、総選挙開票の翌日1日「党是である憲法改正を積極的に進めたい」と発言。米中対立の激化の中で

台湾有事の際には、日本がアメリカの出撃に協力する「日米首脳共同声明」（本年4月）を背景に、憲法違反・国際法違反の「敵基地攻撃能力」の保有の検討など「戦争する国」づくりへの危険な動きを強めています。21世紀の戦争は、核保有国やその同盟国が戦争の当事者であったら「核戦争」になりかねません。

九条の会の呼びかけ人のひとりである井上ひさしさんは、「第2次世界大戦後にできた日本国憲法は、「地球上の全人類が戦争をしないで生きていこう」という気持ちが高まった時に生まれた世界史からの贈り物であり最高の傑作と記しています。コロナ禍で憲法前文の「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有する」の言葉が重みを増しています。

安倍氏は辞任表明の記者会見で、任期中の改憲ができなかった理由について「世論が十分に盛り上がらなかった」と述べています。

参議院は、改憲発議に必要な3分の2を割っています。九条守れ!の世論を広げましょう。コロナが収まったら、代田・九条の会のつどいを再開し、みなさんにお会いできるのを楽しみにしています。

(代田5丁目・小澤 清子)

生まれたとき、戦争のさなかだった人も  
生まれたとき、戦争が終わっていた人も  
生まれたとき、戦争がなかった人も  
いま、生きていて

今日、せいっぱい生きた人も  
のんびり過ごした人も

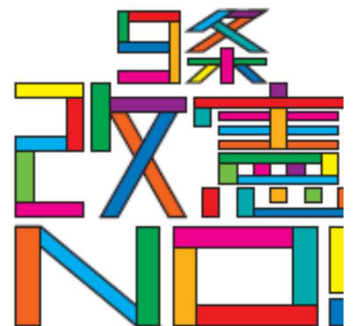
明日のある生活を大事にしたい  
「戦争する国」には、明日がない  
この国を

「戦争する国」にはさせない  
みんな 今日生きて、

明日を生きたいから

(高岡 岑郷)

2008年9月「代田・九条の会 発足のつどい  
の呼びかけ」から



～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

## 世田谷・九条の会 16 周年講演のつどい

世田谷・九条の会 16 周年講演のつどいが、11 月 13 日に開かれ、参加しました。

開会の挨拶で、宣伝していて世代の格差を感じ、若い 1982 年生まれの フォトジャーナリスト・ライター の 佐藤 慧さん にお話ししたとのこと。「共生社会に向けて・紛争・災害の現場で考えたこと」と題して写真も交えながらお話しして下さいました。

バックパッカーとして世界をまわった後、アメリカの途上国に人を派遣する NPO に所属して、アフリカのザンビア共和国に派遣されました。後発発展途上国で平均寿命が 37,6 歳、子どもが感染症などで 5 歳まで生きることが少ないためです。電気・ガス・水道も無く、日本では貧しい可愛そうな人たちという思い込みがあったのが、普通の暮らしがあり、不便なことは不幸せではないと思ったそうです。肉を買うのは、鶏や豚を 1 頭買い、殺してさばいて食べる。食べることは命をいただいている、日常に感謝を感じることができ、単に上から下への援助ではなく、対等に接することが共生社会に通じることなのではないかと思ったそうです。

ザンビアの北側のコンゴ共和国は、資源（レアメタルなど）を巡って闘いが絶えず、平和以外はすべてある国と言われていて、武装勢力に大人は殺され、子どもは拐われ、男子は兵士にされ、子どもや親しい人を殺させるのだそうです。女子は妻にさせられる現実もありました。

佐藤さんは岩手の陸前高田の出身です。2011,3,11 のとき、ザンビアにいました。国際ニュースで震災を知り、日本に帰り、20 日に岩手に着きました。その時、お父さんから電話があり無事だったことがわかりました。お父さんは県立高田病院の医師で被災者の治療をしていて倒れて入院していました。お母さんは行方不明で、3～4 月初め壊滅した市街地を探していたときの匂いを語って下さいました。お母さんは 4 月 9 日に海から 9 キロ上流で見つかりました。お父さんの悲しみは深く、月日がたつて癒えることなく、逆にたまっていく。ただ、悲しみ、苦しみの深さは愛する深さであり、父にこれだけ愛された母は幸せだったと思うことができたそうです。

ご自身も 3 年後にうつになりました。少しずつ仕事を再開し、台風で大きな被害があったフィリピンで、何もかも無くなったなかで、ライカという少女に会って、家に泊めてもらったそうです。ガレキを集めて造った家です。そこには、大人も子どもも協力しあい、子どもの笑顔がありました。教会に通い、母親は災害ですべてのものを失っても、今日を生かされていることに感謝していて、連帯する力・前を向くこと、世界の素晴らしさを届けたかったと思ったそうです。



中東のイラクやシリアにも取材に行かれ、アメリカの 9,11 からテロリストは悪、イスラム国は悪でアメリカは正義だ、という考え方に対して、アメリカは空爆で町を破壊している。若者はなぜイスラム国などに入るのか。正義だと思って入っていくが、もし他に選択肢があれば、入らないのではないかと、戦争によって平和はつくれないう。

自分に何ができるのか考えることも必要だとも、日々買うものがどこからきているのかとも話されました。

中身を伝えるのはとても難しく、dialogue for people という NPO 法人で各地を取材し、情報を発信しています。ぜひ、検索してみてください。

閉会の挨拶で、総選挙で改憲勢力が 3 分の 2 を超え、改憲・九条破壊阻止のため立ち上がることが急務と訴えがありました。九条の会も声明を出しています。行動しなければと思っています。

(代田 4 丁目・萱野 幸子)

### 集会等の紹介

\*\*以下の案内があります。

今後の状況によっては中止されることもありますので、ご注意ください。

12 月 12 日 (日) 午前 10:00～ 戦争させない！九条こわすな！世田谷連絡会 学習会  
「総選挙結果と市民運動・野党共闘」

講師：高田 健さん（総がかり行動実行委員会共同代表）

場所：三軒茶屋・キャロットタワー 5 階 セミナールーム A・B